

大阪府歯科保険医協会 敬
 大 発 行 人 志 岐 敬
 大 阪 市 浪 速 区 幸 町 1-2-33
 電 話 (06) 6568-7731 (代 表)
 http://osk-net.org/
 ● 定 価 ・ 年 間 10,000 円 月 1,000 円
 ● 1977 年 5 月 23 日 第 三 種 郵 便 物 認 可

6/5
 2012 年 第 1108 号
 (毎月 5、15、25 日 発行)



120人が参加した市民講座＝5月20日、M&Dホール

保険でよい歯科診療を
 大阪連絡会

「噛むことは生きる力」

総会・市民講座に120人が参加

歯科医療関係者や患者らでつくる「保険でよい歯科診療を大阪連絡会」は、第3回総会と市民講座「口は命の入口、心の出口」を5月20日、M&Dホールで開いた。講師を務めた西日本新聞編集委員の佐藤弘氏は、「食」をテーマにした豊富な取材経験に基づき、生きることに噛むことにつながりを軽妙に語った。参加した120人は、ユーモアを交えながらの講演に熱心に耳を傾けていた。

(3面に関連記事)

佐藤氏は、西日本新聞で「食・農・くらし」を担当し、食生活を考える長期連載「食卓の向こう側」を企画。読者から大きな反響を呼んでいる。子どもの平均体温が低下していることを指摘した佐藤氏は、低体温で体内酵素の動きが弱まり、臓器・免疫機能の低下を引き起こすことを説明。一因として、ハウス栽培による季節外れの野菜や果物の摂取など食生活の変化を挙げた。

大学生の食生活の写真を紹介し、参加者と共に問題点を検討。朝食抜きや菓子だけの食事などの実態について「TPPが農業を破壊する前に私たちが子どもの体が壊れていく」と述べ、「食」と「命」のつながりを見つめ直すよう訴えた。

「医療どお～ナル」6月テーマ 歯科医療の 疑問・質問に答えます



歯科・医科制作のテレビ番組「医療どお～ナル」(サンテレビ・毎週木・午後3時55分～)の最新作が6月7日から放送される。街頭でインタビューしながら、歯科に関する悩みに答える内容。

食生活を改善するため、教育の重要性を強調した上で、「今の食育は食べることが中心になってしまっている」と指摘。「作る↓食べる↓出す↓処理する↓土に返す」といった循環の中で考えるよう提起。取材を続けるなかで「噛むことの重

要性に気づかされた」と述べ、入れ歯をつくって長生きしたロボの話を紹介した。

- 近年の咀嚼回数の減少傾向を示しながら、「噛むことは生きる力に直結している。病気を治そうと思ったら、入り口を治さないといけない。医・食・農を一体で考え、もっとアピールしていこう」と呼びかけた。
- 総会で代表世話人の小澤力理事長は、12年度の活動方針として、「保険でよい歯科医療」の実現を求める意見書採択の取

政策部

子どもの口腔崩壊を調査 府下全公立小に協力求める

「子どもの口腔崩壊」問題の実態を把握しようと政策部は5月23日、大阪府下のすべての公立小学校に「学校歯科治療調査票」を送付した。戸井逸美政策部長は、「経済的格差で歯科受診できない子どもを無くすために、歯科治療状況を把握し、データを基に自治体に改善を働きかけていきたい」と述べた。

調査は、府下の1017校を対象に、2011年度と10年度の①歯科検診受診児童数②治療必要児童数③治療必要児童数のうち、治療に通った児童数を質問。その上で、経済的理由による口腔崩壊の児童に遭遇した経験の有無や、子どもの歯科受診に関する状況を尋ね、具体的事例の記載を求めている。回答期限は6月末まで。

「子どもの口腔崩壊」を巡っては、2011年に毎日テレビのニュース番組「Voice」が特集「歯医者に行けない子ども」を放送し、新聞や雑誌も相次いで取り上げるなど、社会問題になっている。

協会は、3月に大阪府教職員組合養護教員部会と懇談し、調査方法について相談。そのなかで、「就学前検診で12本も虫歯になっている子どもがいる」などの実態が寄せられていた。懇談の様子を毎日テレビが放送するなど、マスコミも注目している。

組織部から
郵送物確認について
 新聞は月3回届いていますか
 会員の先生には『大阪歯科保険医新聞』『全国保険医新聞』を毎月5・15・25日付で、『月刊保団連』を毎月15日付で発行しています。新聞や引き落とし明細書などが正しく届いていない場合は、協会・事務局までご連絡ください。

第48回 11年度決算・12年度予算を可決 消費増税やTPP参加の撤回求め決議

協会は、第48回通常評議員会を5月19日、M&Dホールで開き、2011年度決算報告案、11年度収支差額処理案、12年度予算案を出席評議員の全員一致で可決した。消費増税、TPP参加、大阪市政「改革」にそれぞれ反対する3決議を採択した。新宅雅文議長、平川光彦副議長、張村善紀副議長が進行。評議員46人、役員24人が出席した。(5面に評議員会決議)

小澤力理事長は挨拶で、診療報酬プラス改定を勝ち取った協会運動の成果を報告。その上で、当面の重要課題として、①消費増税を含む税と社会保障の「一体改革」②TPP③大阪市政「改

革」を挙げ、「国民皆保険制度を守り、府民が安心して歯科医院に通える医療制度をつくるために全力を尽くす」と強調し、協会活動への協力を訴えた。

報告案を説明した三井泰正副理事長は、「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」の市民講座や街頭宣伝、歯科医療改善を求める全国集会や国会要請に積極的に取り組んできたことなど、決算案の特徴を紹介。

2号議案・収支差額処理案については、災害対策積立金や会館補修積立金などに計上したことを報告した。

下井戸昭介副理事長

紙面へのご意見や感想、投稿記事などを新聞部までお寄せください。紙面に掲載させていただいた場合は、図書カード3千円分を進呈いたします。(郵送やファクスで、協会新聞部までお寄せください)

エビキタス
 ・コンピューターとは、元々はどこにでもあって、何時でも使えるコンピューターという意味だ。
 私にとってはワープロで読解不能な悪筆を解消し、表修計で膨大な計算をやってくれたり、時にグラフを描いてくれる結構な機械にすぎない。だが、これなくしてはこれまでの仕事の半分もできなかったらどう。

IT革命の本質は、文具や事務機器を超えて情報処理である。だが、昔の患者の医療情報は古い紙カルテだけが頼りになる。磁気情報はパソコンの機種が次々と変わるため廃棄されてしまった。DOSの1太郎やマックのクリリスなどで書いた著作も、プリンアウトしたものだけが残っている。世の変化が早すぎてついていけないとほやく年寄りは、私より一回り若い世代である。

この変化は単に情報機器の商品寿命が減ったことで、別に情報の中身が進化した訳でもない。表面の変化に振り回されてはたまらん。